

3年生 美術科の学習内容

1 美術科の学習のねらい

- ・授業を通して、進んで美術を愛好する気持ちを培い、心豊かな生活を創る気持ちを養う。
- ・感じたことや考えたことをもとに、表現する技能を身につけ、創意工夫して表現する能力を伸ばす。
- ・美術文化に対する関心を高め、よさや美しさを味わう能力を高める。

2 評価の方法

- (1) 美術への関心・意欲・態度
授業の準備・かたづけ 学習に対する態度・集中力
忘れ物・提出物の状況など
- (2) 発想・構想の能力
アイデアスケッチ、下絵など独自に工夫したこと
- (3) 創造的な技能
材料・用具の扱い方 技法を生かした表現方法など
- (4) 鑑賞の能力
ワークシート・自己評価表の記入内容 発表内容など

3 学習内容

	領域	題材名	題材のねらいと学習の内容	評価の観点（規準）
1 学 期 11 時 間	鑑賞	「生きることと美術」 美術作品を鑑賞しよう	作品鑑賞を通して、自分の思いを伝えたり、他の人の表現を受け止め考えるなどの美術の目的をつかみ、表現することは生きることにつながることに気づく。	○作家の作品を鑑賞することにより、美術の目的をつかみ、表現することが生きることにつながることを理解する。
	鑑賞	「自分と向き合おう」	松本俊介やピカソ。アンソール、鬚光の自画像を鑑賞し、作家が時代背景や自分の考えを踏まえて表現したことをつかみ、その表現の面白さを味わう。	○作家が自分自身を見つめて描いた自画像の表現はする意図をつかみ、その表現の面白さを感じ取る。
	絵画	「自分と向き合おう」 15歳の自分を見つめて	さまざまな表現方法を用いて自画像の制作をすることにより、自分のよさや特長をとらえ、現在の自分を見つめ直す。	○自画像として自分自身を表現することに興味・関心を持ち、自分自身と向き合うことから表現の構想を練る。 ○自分自身の意図をよりよく表現できる技法を工夫する。
	鑑賞	「祈りの造形」	日本の代表的な建造物や仏像など文化史に重要と思われる造形美を鑑賞する。	○お互いの作品を鑑賞し、そのよさを気づく。 ○作者の表現意図や思いを気づく ○仏教文化の造形の美しさを学び、日本美術に関心を持つ。

2 学 期 15 時 間	鑑賞	「モノトーン的美しさ」 「絵巻物の世界」	空間や精神性まで表現する水墨画のよさや美しさを感じ取り、その奥深さを味わう。 絵巻物や物語の表現に関心を持ち、その技法や表現方法の面白さを味わう。	○水墨画の空間表現を理解し、作家の表現意図をつかむ。 ○作者の作品を表現する意図をつかみ、絵巻物の表現の面白さに気づく。
	工芸 デザイン	「こころのカタチ」 「自分の紋をつくろう」	中学3年生の今の自分の心情をダンボールアートで表現する。積層や組み合わせなど表現の仕方を考え、「こころのカタチ」を 伝統的な和の模様の特徴をつかみ、形や色を工夫して自分の思いを紋で表現する。	○水墨画の表現に興味・関心を持ち、時間の流れや動きを考えて構想を練る。 ○水墨画の技法をつかみ、表現方法を工夫する。 ○友達の作品のよさについて鑑賞する。作者が作品に込めた思いや表現の工夫を鑑賞できる。 ○和の文様の特徴をつかみ、自分の思いを工夫して紋で表現する
3 学 期 9 時 間	鑑賞	「伝統美に学ぶ」 —琳派の造形—	琳派の造形的美しさを味わうとともに、伝統の美や和の造形感覚が生活の中に生かされていることに気づく。	○日本の伝統の美や和の造形感覚が日常の生活の中に生かされていることをつかむ。
	工芸 デザイン	「自分の印をつくろう」 —篆刻による印鑑づくり—	自分の姓名を篆刻で表現する。 使いやすい持ち手をデザインし、彫刻する。	○篆刻に興味・関心を持ち、様々な字体を参考にして構想を練り、粘り強く丁寧に彫刻表現する。石という素材を生かした表現を工夫して行う。 ○友達の作品のよさについて鑑賞する。作者が作品に込めた思いや表現の工夫を鑑賞する。
	鑑賞	「人の表現から見る美術の歴史」 —時代ごとの表現の変化	人類が遠い昔より表してきた「人についての表現」の変化をつかみ、時代ごとの作品の美しさを味わう。	○それぞれの時代の「人」についての表現の特徴をつかみ、時代ごとの作品の美しさを味わう